

災害は明日起こるかもしれない



昨年7月に発生した九州北部豪雨は、死者37名、行方不明者4名の人的被害のほか、家屋の全半壊や床上浸水など甚大な被害をもたらしました。また、今年4月に大分県中津市で発生した山崩れも記憶に新しいと思います。私たちの住んでいるところでも、いつ何が起きてもおかしくありません。もし、それが明日だとしたら……。皆さんは、万全の準備ができていますか？

非常持ち出し品の一例

<p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">懐中電灯</p> <p style="font-size: 8px;">できれば1人に1つ用意。準備の電池と電球も忘れずに。</p>	<p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">携帯ラジオ</p> <p style="font-size: 8px;">小型で軽く、AMとFMの両方を開けるものを用意。準備の電池は多めに用意を。</p>
<p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">非常食・水</p> <p style="font-size: 8px;">カンパンや缶詰など火を通さずに食べられるものを。水はペットボトル入りのミネラルウォーターがよい。乳幼児がいる場合は粉ミルクなどを忘れずに。</p>	<p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">貴重品</p> <p style="font-size: 8px;">現金、預金通帳、印鑑、免許証、健康保険証など。現金は10円硬貨も(公衆電話の利用に便利)。</p>
<p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">救急薬品・常備薬</p> <p style="font-size: 8px;">キズ薬、絆創膏、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば忘れずに用意を。</p>	<p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">その他</p> <p style="font-size: 8px;">ヘルメット、衣類、タオル、軍手、ビニールシート、ティッシュ、ビニール袋、生理用品、歯ブラシなど。</p>

枕崎市は「台風銀座」といわれたように、「枕崎台風」や「ルース台風」をはじめ、411名が犠牲になった「黒潮流れ」など、過去に台風により多大な被害を受けてきました。

また、これからの梅雨時期には、河川の氾濫や土砂崩れなどの恐れがあります。さらに、鹿児島県地震等災害予測調査によると、鹿児島湾直下や種子島北東沖を震源とする地震では、本市は最大震度5強の地震が発生、南海トラフ地震では最大で3層を超える津波が発生すると予測されています。

「災害は突然やってくる」といわれるように、いつどのような災害が起こるか予測することができません。そのため、日頃からの備えが重要になります。

日頃から非常時に持ち出す物を準備しておいたり、防災マップ等で最寄りの避難所や危険箇所を確認するなどの備えをすることで、少しでも早く安全な場所に避難することができます。

自主防災組織結成 100%を目指して

自主防災組織は、地域の住民が自分たちの地域は自分たちで

いざという時に 命を守る行動ができますか

災害が発生した時、身に危険を感じたら、迷うことなく即座に動けるでしょうか。何を持って、どの道を通つて、どこに逃げるかなどあらかじめ決めておかないと、いざという時に即座に行動ができません。

●自主防災組織の結成率

地区別	結成率(%)	未結成公民館数
金山	86.3	2
桜山	100.0	0
立神	96.4	2
枕崎	76.2	8
別府	95.0	3
計	87.6	15



▲平成29年度避難所運営訓練の様子

台風や大雨、大規模な災害時

情報収集が明暗を分ける こともある

これから梅雨の時期を迎えますが、最近短時間に集中して局地的に雨が降ることが多くなっています。短時間に集中した大雨の雨が降ると、行き場を失った雨水が川や側溝から溢れ、道路が冠水したり、床上浸水になったりします。道路が冠水すると道路と川、あるいは側溝との境目が分からなくなり、非常に危険です。外を歩く際や避難する際には、周囲の状況をよく見て判断してください。

大雨が降った際には 特に注意が必要

これからの梅雨の時期を迎えますが、最近短時間に集中して局地的に雨が降ることが多くなっています。短時間に集中した大雨の雨が降ると、行き場を失った雨水が川や側溝から溢れ、道路が冠水したり、床上浸水になったりします。道路が冠水すると道路と川、あるいは側溝との境目が分からなくなり、非常に危険です。外を歩く際や避難する際には、周囲の状況をよく見て判断してください。

危険の度合いを 色でお知らせ

気象庁では、3つの指標と警報等の基準を用いて、雨によって引き起こされる災害の危険度の高まりを評価・判断し、危険度分布の予測を提供しています。大雨等の時は、気象庁のホームページで下図のように危険の度合いを色分けして地図上に示していますので、避難する際の判断材料の一つとして活用してください。

色が持つ意味	土砂災害	浸水害	洪水害
極めて危険	すでに土砂災害警戒情報の基準に到達	すでに警報基準の一段上の基準に到達	すでに警報基準の一段上の基準に到達
非常に危険	2時間先までに土砂災害警戒情報の基準に到達すると予想	1時間先までに警報基準の一段上の基準に到達すると予想	3時間先までに警報基準の一段上の基準に到達すると予想
警戒	2時間先までに警報基準に到達すると予想	1時間先までに警報基準に到達すると予想	3時間先までに警報基準に到達すると予想
注意	2時間先までに注意報基準に到達すると予想	1時間先までに注意報基準に到達すると予想	3時間先までに注意報基準に到達すると予想
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。		